

# まちづくり交付金 事後評価シート

## 臼杵城跡周辺地区

平成20年12月

大分県 臼杵市

様式2-1 評価結果のまとめ

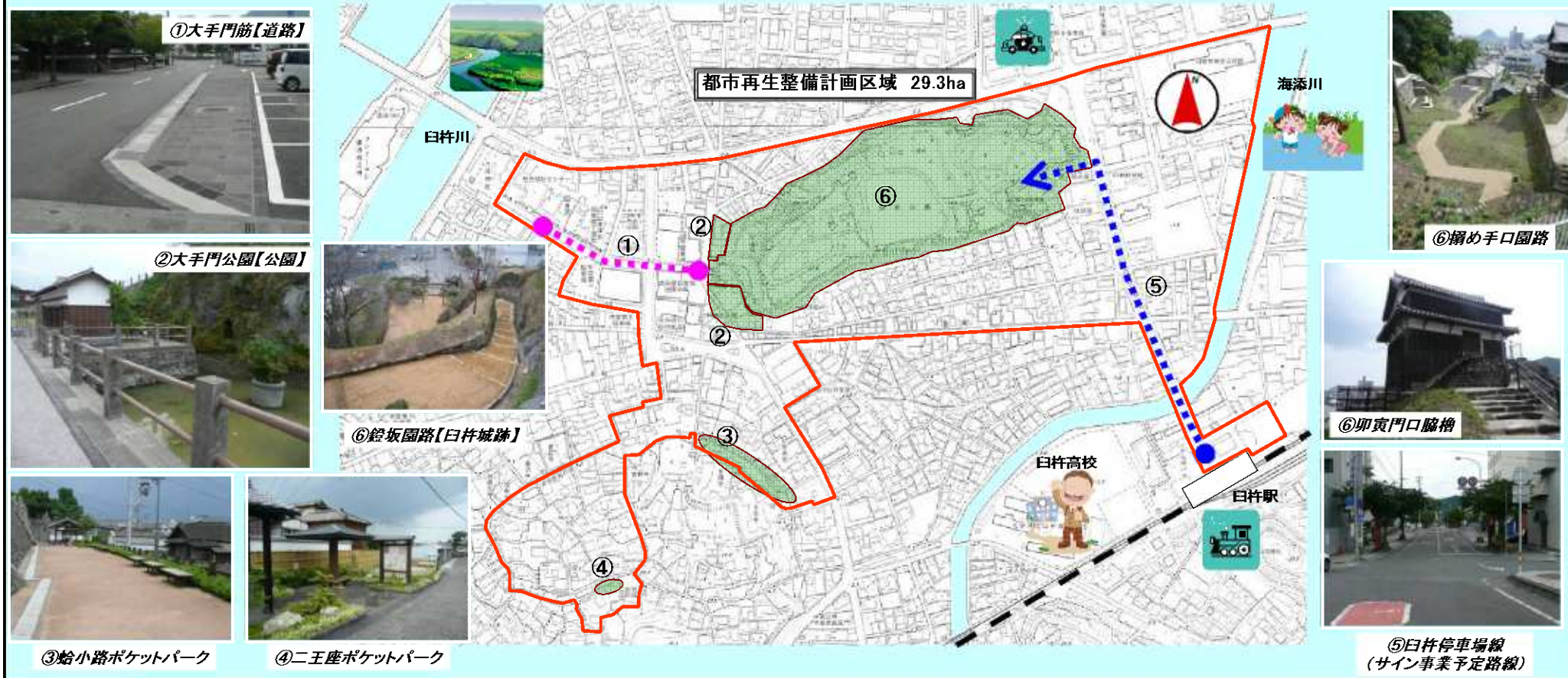
都道府県名	大分県	市町村名	臼杵市		地区名	臼杵城跡周辺地区			面積	29.3ha		
交付期間	平成16年度～平成20年度	事後評価実施時期	平成20年4月～平成21年3月		交付対象事業費	958百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 公園(大手門公園)、地域生活基盤施設(蛤小路ポケットパーク)、高質空間形成施設(臼杵城跡周辺サイン整備)									
		提案事業	地域創造支援事業(文化財保存修理)、事業活用調査(市民意向調査)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	なし	-			-					
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(大手門筋)、地域生活基盤施設(二王座ポケットパーク)	景観の整備と一体化、まちの賑わいという計画の目標と特性を踏まえ、有効性の高い事業を追加。			目標、指標に関しては事業全体の効果として設定しており、その目標を達成するのに効果的な事業を追加するものであるため、目標、指標、数値には影響しない。					
提案事業		なし	-			-						
交付期間の変更	当初	平成16年度～平成19年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		目標、指標に関しては事業全体の効果として設定しており、その目標を達成するのに効果的な事業を追加するものであるため、目標、指標、数値には影響しない。							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	※フォローアップ予定時期
	指標1	臼杵の町なみ来訪者数	人/年	190,000	基準年度 15	目標年度 210,000	20	モニタリング 評価値 217,000	○	あり	各事業を行ったことにより、臼杵城跡周辺における回遊性が向上し、歴史的景観の形成についての評価は高まっているといえる。来訪者数に関しては、各年で動向が一定しておらず、不透明な面もあるが、町なみを活かしたイベントの効果による来訪者の増加が見られる。 ※評価値は平成20年4月時点	H21.4
	指標2	既存家屋等の修景件数	件	120	15	190	20	178	△	あり	目標の達成は困難であると予想されるが、地区内における散策道と拠点施設の整備については、これまでの住民の協力による多くの修景箇所と合わせ、景観形成として一定の成果を得ている。 また、近年の社会経済情勢にあって、事業期間中の修景件数は助成事業開始(H3)から平成19年度までの平均年間件数を上回る見込みであるため住民の景観形成に対する意識もこれまでと同様に高いと言える。 ※評価値は平成20年3月時点	H21.4
	指標3	臼杵城～町なみの一体化度	%	50	15	70	20	63	△	あり	各事業を行ったことにより、臼杵城跡と町なみの景観のつながりが図られたが、来訪者数は各年で動向が一定しておらず不透明であることから、事業の成果については不透明である。 見込み評価では目標値に達しておらず厳しい状況であるが、町なみへの眺望を活かしたイベントの実施等により、臼杵城跡の来訪者が増加している面も生じている。 ※評価値は平成20年4月時点	H21.4
	指標4	商店街来店客数上昇率(商店街アンケート調査による来店客が増加傾向があると回答した割合)	%	16.6	15	25.0	20	32.5	○	あり	各事業の組み合わせにより、すでに整備がされている商店街(八町大馬)への景観のつながりや散策道の連続性の確保などにより、一定の評価は得られている。 これにより、地域一体への来訪者を商店街へ誘導できる環境が向上し、目標値を達成することができたとみている。 ※評価値は平成20年8月調査実施	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>来訪者の平均回遊時間を増加させるような各方面の企画が多くみられる。(JRの企画、日豊海岸海鮮ツアー、スタンラリー、栴布の町なみとセットになったモニターツアー)</li> <li>町なみ整備が盛ったことにより、メディアの取材や活用、更には映画の舞台となるなどの町なみ自体の評価が向上し、市民に自信をもたらしている。</li> <li>歴史的な景観を活かしたまちづくりの取り組みに対して、大型店舗や企業などの建替えや整備においては周囲の環境への配慮が随所で見られる。(市民の景観に対する意識の醸成が図られてきた)</li> </ul>											
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	市民プロジェクトチーム(都市計画マスタープラン・景観計画)における中心市街地の整備についての検討	都市再生整備計画に記載、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				中心市街地の景観形成等のアイデアを臼杵城跡と町なみをつなぐ大手門周辺について今後の景観、拠点整備に活かしていく。					
持続的なまちづくり体制の構築	これまでの官民による町なみ保全の取り組み	都市再生整備計画に記載、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				事業実施以前からの市民レベルの活動をきっかけとしてはじまった行政と市民が一体となって取り組んでいる町なみ保存を今後も引き続き、さらなる理解と協力を得ながら進めていく。						

※フォローアップ:評価において数値目標の達成状況の検証に「見込み」の値を用いた場合や計画の目標並びに数値目標を達成できなかったために改善策を実施した場合、適切な時期にあらためて達成状況を確認し評価を確定させることです。

## 様式2-2 地区の概要

### 臼杵城跡周辺地区(大分県臼杵市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標: 中心市街地をその歴史特性を活かした景観整備による人・モノが活発に交流するまちの賑わいの復活	臼杵の町なみ来訪者数	単位:人/年	190,000 H15	210,000 H20	217,000 H20
目標1: 城下町のシンボルである臼杵城跡の史跡景観整備を行なうことで、地域住民の景観保護意識の高揚を図る	既存家屋等の修景件数	単位:件	120 H15	190 H20	178 H20
目標2: 地域住民が自発的に景観形成に取り組み、自らが地域特性にふさわしい居住環境を形成・維持できる環境を整備する。	臼杵城～町なみの一体化度	単位:%	50 H15	70 H20	63 H20
目標3: 地域特性にふさわしい景観のなかで、活発な人的・物的交流が活発となる拠点を整備する。	商店街来店客数上昇率	単位:%	16.6 H15	25.0 H20	32.5 H20
目標4: 来訪者が地域住民の生活を妨げることなく、安心して円滑にまちなみ散策を楽しめる環境を整備する					



まちの課題の変化	<p>景観の形成は進んだが、整備された施設へのアクセス、憩いの場としての利便性や親しみやすさの向上が足りないとの声が寄せられている。バリアフリーなど日常生活環境の向上、利便性についても不満の意見がある。</p> <p>また災害発生時における来訪者への対策も検討していく必要がある。</p> <p>中心市街地の賑わいの復活へはハード整備は進んだが、商店街の個々の店舗における集客力の向上に向けた取り組みが必要である。</p>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>○臼杵城跡のさらなるシンボル性と活用性の向上</p> <p>本事業によりある程度の整備は実施できたもののその完成度としては低い。さらなる町なみの一体化を図るためには今後も継続して文化財関連整備を進めるとともに、公園としての機能性、快適性、安全性を高めていく必要がある。</p> <p>○情報・交流拠点の整備、アクセスの充実</p> <p>歴史的景観整備が進み回遊性が高まれば多くの人々が往来することが予想されるが、拠点となる施設で現在整備されているものについては位置的にアクセス性が悪く決して十分に活用されているとはいえない。またそれと同時に大手門周辺については景観、地区の一体性の面からみても非常に重要な位置にあり、今後既存施設の活用方法等の見直しも含め存分に機能を発揮できる施設の整備が必要である。</p> <p>○中心市街地の活性化に向けた活動</p> <p>これまでのハード面の取り組みによりいろいろなイベントが企画され、市内内外での認知度、意識も高まってきているが、時季的なものがほとんどである。今後中心市街地の活性化を目指すには、これまでの景観整備を活かしたPR活動、企画等を官民一体となり行うこと、そして個々の意識の向上により集客力のアップを目指していく必要がある。</p>